湯沢砂防女性モニターレポート　第３回見学会

平成１８年１１月発行
国土交通省湯沢砂防事務所

湯沢砂防事務所は女性モニターの皆さんと一緒に、より良い砂防について考えています。

10 月 27 日金曜日、8 名のモニターの方々に参加いただき、第 3 回見学会を行いました。今回は、中越地震の被害が激しかった芋川について、流域の被害状況や復旧工事の現況を見ていただきました。その上で、なかなか現場を見てもらうことが難しく、その役割を伝えにくい砂防事業について、一般の方々に向けてどのような情報発信をしてゆけばよいのかについて考えていただきました。

＜位置図＞

＊＊プログラム＊＊＊＊＊＊＊＊

9:00　湯沢砂防事務所出発
10:15　破間川出張所経由
11:00　楢木地区　護岸工事
11:20　南平地区　鋼製セル型砂防えん堤工事
11:40　寺野地区　鋼製枠を利用した砂防えん堤工事
13:00　破間川出張所着
13:20　意見交換会
14:20　終了～湯沢砂防事務所戻り

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

未だに芋川の周辺では、いたるところで地震の爪跡が残っています。

芋川流域の砂防事業について

芋川は魚野川の支川で、流域は長岡市（旧山古志村）、魚沼市、小千谷市、川口町にまたがっています。この地域の地盤は、比較的新しい地層からなっており、非常に脆弱です。このため芋川流域では、中越地震により河道閉塞、斜面崩壊、地すべりが多数発生しました。

現在もなお大量の不安定な土砂が流域内にあります。今後の大雨によって発生する恐れのある土砂災害を防止し、芋川流域内及び下流域の安全を確保するため、湯沢砂防事務所では平成 16 年から 11 箇所の現場で、土砂災害を防ぐための砂防えん堤などの工事を進めています。

楢木地区

楢木地区（2004 年 10 月 28 日撮影）
矢印部分：崩れた土砂が芋川を埋めた状況

地震当時は、崩落によって斜面から落ちてきた土砂や上流から流れてくる土砂が川を塞いで、あふれている状態でした。

現在、県は斜面の対策工事を、湯沢砂防事務所は川がスムーズに流れるように護岸整備をしています。ここでは、空洞のブロックの中に土砂を入れる環境保全型ブロックを採用し、植物が生えるようにしています。また、石の形をしたブロックにすることで、景観にも配慮しています。

斜面にはいくつかの水路が作られ、護岸を通って川へ流れるように、県と国が協力して工事を行っています。

護岸工事の様子。写真の左下あたりでは、環境保全型ブロックが積まれています。

＊女性モニターアンケートより＊

- **全国から工事業者が集まっているとのこと。夜通し工事をして頂いていること、責任感の強さを感じましたが、多くの業者と国、県、市が分担して工事を進める大変さも初めて知りました。**
- **地震前はとても美しい山古志だったにちがいありません。この地震によってたくさんのえん堤ができ、コンクリートをはりめぐらす・・・それはそれでしかたのない事と思いますが、自然に近い形で残せたらと思います。**

南平地区

南平地区では、工事をするにあたって、まずはじめに重機を入れるための進入路作りから始めました。その後、資材運搬用の道路を作り、本格的に工事にとりかかることができたのは昨年からです。ここでは鋼製セル型の砂防えん堤を作っています。コンクリートの供給が難しいため、円筒型のセルの中に周囲の地山の掘削で発生した土砂を入ることでコストを安くし、工期を短く出来るというメリットもあります。なお、工事が終わった後は、資材運搬路は地区の方々の生活道路として活用される予定です。

太鼓のように見えるのがセルで、中に土砂を詰めています。

周りの斜面は崩れ、足場も悪い状態でした。

＊女性モニターアンケートより＊

- 工事現場に近づくことも難しい程、道路状況も悪く、工事を進める難しさを感じました。工事の後に工事用道路が生活のための道路として使用できる事は良いと思いました。
- 機材や作るための材料が運べない。工事現場で働く人の知恵ってすばらしいと思いました。道路から作らないと作業が進まないこと、全国ネットで教えたいです。
- 現場で出た土砂を無駄にせずに使っての工事に感心しました。工事は環境破壊ととられがちですが、きちんと対策をして行っていることをもっと周りに知らせてもよいと思いました。

寺野地区

大規模な河道閉塞が起きた寺野地区。ここでは全部で３つの砂防えん堤を施工しています。地盤が悪かったため、セメントと土砂を混ぜて地盤を固める地盤改良を行ってから、えん堤の工事に取り掛かりました。南平地区の工事と同様に大量のコンクリートの供給が難しいため、鋼鉄製枠の中に土砂を詰めて砂防えん堤を造っています。

寺野地区の河導閉塞（2004 年 10 月 28 日撮影）
矢印部分：芋川がせき止められてダムの様になっています。

全国の土木関係の業者が芋川に集結しています。見学中も秋田ナンバーのダンプが土砂を運んできました。

モニターさんからは次々と質問が寄せられました。

＊女性モニターアンケートより＊

- 土砂、水って思ったよりこわいものなんですね。その土砂を砂防えん堤を作るのに再利用をしている事も知りませんでした。
- 県外からのトラックもあり、復興には様々な人たちが関わっていることを感じました。災害の復興現場に立ってみて、人が安心して暮らすためには、莫大なお金がかかるのだなと改めて思いました。必要だからつくるのでしょうが、ここまでしなければならない？という疑問もありました。
- 土砂を魚沼市の大白川の方から運んでいる事は大変だと思った。まわりは 90 度のガケで、危険な場所で、工事を続けて下さっている事を感謝しました。
- 芋川の水がたまってダムのようになっていることにびっくり。ダム工事しているの？と聞きたくなるような光景でした。

意見交換会

なかなか現場を見てもらうことが難しい芋川流域の砂防事業を一般の人にわかりやすく情報発信する方法について、女性モニターの皆さんにご意見を伺いました。

＊モニターさんよりいただいたご意見＊＊＊＊＊＊

（伝えたいもの）

- **まず、「砂防」という言葉自体を皆さんに知ってもらうようにしなければ。**
- **最新の技術と知識と団結力を集約した事を残し、伝えたい。**
- **住民の方々の住み続けたいというこだわり、プライド、独自の文化などを伝えないと全国的な理解を得るのは難しい。**
- **どれだけ大変な工事だから進まないのか、その苦労が伝わっていないと思う。**

（手段として）

- **百聞は一見にしかず。どのあたりの工事現場まで入れるか分からないけど、実際に見てもらうことが一番。**
- **ドキュメンタリーとして、後世に伝えるように映像で工事の過程をまとめてほしい。**
- **映像は、映写会など各団体の集合時に上映できないものでしょうか。**
- **たくさんの方々がいまだこの工事にかかわっている事を知らなかった。メディアがせっかくあるのにうまく表現できてないのが残念。**

（芋川かわら版について）

- **芋川かわら版は工法などわかりやすく説明されているので、南魚沼など広範囲に配ることは出来ないか。**
- **芋川砂防かわら版は、もっといろんな方に目にしてほしいと思うし、メディアにも取り上げてほしいと思いました。山古志の人たちだけでなく、全国の人たちに見てもらえると、地震について砂防工事についてもう一度考える機会があると思いました。**

芋川かわら版

湯沢砂防より

前回は火山地域の荒廃地を抱える中津川を上流から下流へと下りながら、上流･中流･下流それぞれに応じて砂防対策をしていることをご覧いただいたところ、砂防事業についてよく分かったとの感想を頂いた反面、意見交換会では「砂防はＰＲが不足している」というご指摘が多くありました。

そこで、今回は現地見学後、引き続き情報発信の具体的なやり方についてご意見を伺いました。

関係者以外立入できない現場を、一般の方々に対してどのように伝えれば理解を進めることができるのか、議論はたいへん盛り上がり、モニターの皆様から貴重なご意見をたくさんいただくことができました。これからの情報発信に反映させられるようにがんばりたいと思います。ありがとうございました。

お問い合わせ先：国土交通省 湯沢砂防事務所 調査課　　TEL：025-784-2073　　FAX：025-784-2441
〒949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立 23　ホームページ：http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/